


宿根草の株分け、春花壇の植え込み、落葉花木のさし木		
2005年3月	弥生(やよい)・桜月(さくらづき)・花見月(はなみつき)・ 夢見月(ゆめみつき)・晩春(ばんしゅん)	●大地が本格的に活動しはじめる季節
日ごとに日ざしが強くなり、天気は周期的に変わりがちです。日本海側でも、雪の日は少なくなり、春の兆しが見え始めます。草花の待ちに待った春がやってきます。		
庭木の作業	落葉樹・常緑樹の植え替え	
草花の作業	・1年草や宿根草は、地ごしらえをして中旬までには植付けを終わらせる。 ・夏咲き球根は、分球して植えつける。	

今月の誕生花	アイリス・スイートピー・スマレ・フリージア	
今月の花	スマレ	
	花言葉/誠実・ひかえめ	
	外国では、パーティでスマレの花をブドウ酒の注がれたグラスに浮かべて、彩りと香りを楽しむそうです。	
	<p>原産地は全世界の温帯から暖帯です。スマレ科スマレ属の無茎性多年草。英名はバイオレット(Violet)。草丈は10~20cmくらい。開花時期は3~5月。最盛期は3月。</p> <p>ギリシャ神話には、こんな話があります。女神ヘラの神殿の巫女であったイオは、あるときヘラの夫である大神ゼウスにみそめられ、何度か逢引をしたため、嫉妬したヘラによって白い牝牛に変えられてしまいました。しかし、あたりには粗末な草しかなく、牝牛になったイオが食べられるような草は1本もはえていません。そこで、かわいそうに思ったゼウスが生み出したのが、スマレだったそうです。</p> <p>ギリシャ人は、この花をイオンと名づけ、イオニアのニンフたちは、この花をゼウスに捧げました。</p> <p>ヨーロッパの花言葉では「誠実」「ひかえめ」を象徴するスマレは、美を象徴するバラ、威厳を表すユリと並んで大切に扱われているそうです。</p>	

宿根草の株分け、植えかえ

宿根草の多くは、毎年、芽を出して花を咲かせますが、3～4年経った株は、株分けや植えかえを行きましょう。

この時期に植えかえをするのは、夏～秋咲きの宿根草です。

分けた株は、今まで植えてあった場所以外のところに植えましょう。やむを得ず、同じ場所に植える場合は、腐葉土や乾燥牛糞、少量の石灰を加えましょう。

また、植えたばかりの株には、堆肥を与えましょう。株まわりに ひと握りの化成肥料を与えます。

●株分けのしがた

1.株分けは、葉が黄色くなってきた頃が目安。作業効率を考えて、地上の茎葉をカットします。



2.スコップで株を掘りあげます。スコップが 土中に完全に入るくらい深く差し込むこと。



3.株を水で洗い流し、土を落とします。株は手で左右に引っ張ると、簡単に分けられます。



4.芽がついている株を、ひと芽ずつ根をつけたまま分けます。株は、以前とは別の場所に植えるのがベストです。



春花壇の植え込み

3月中旬には、霜や雪の降る心配がほとんどなくなるので、冬の間計画していた、花壇を作りましょう。

風のない暖かい日に、苗をポットから出してそのまま配置します。同じ種類で 苗に大小がある場合は、大小交互に並べましょう。

また、間隔は左右よりも前後の間隔を広く取ると、株間があくので、密植とならずに長持ちします。植え方は、穴を掘って苗をいれ、土を寄せて 根元を軽く押さえます。

落葉花木のさし木

2月中旬から3月上旬にかけては、落葉性の樹木のさし木の適期です。

枝は落葉して休眠中であり、地中の温度が少しずつ温まり始め、やがて枝から新芽を伸ばす準備がととのいつつあるので 好条件なのです。

前年に伸びた徒長枝の元のほうを使いましょう。長さは20~30cmで3節以上。元は節のすぐ下でくさび形に切り、先の方は節のすぐ上で切ります。新しい芽はかならず節のところから伸びてきます。

ヤナギ類、ムクゲ、ウツギ類、アジサイ類、レンギョウ、サルスベリ、ザクロ、アベリアなどが さし木できます。

●ネコヤナギのさし木

銀白色の毛で覆われたネコヤナギの花穂は、とてもきれいですね。

正式には「フリソデヤナギ」というそうですが、花屋さんでは、初めのころには、赤い苞をかぶっているので「赤芽」と呼ばれているようです。

花びんの中でもよく芽を出すくらいですから、はじめから枝をさし木すれば、もっと確実に苗を作ることができますよ。



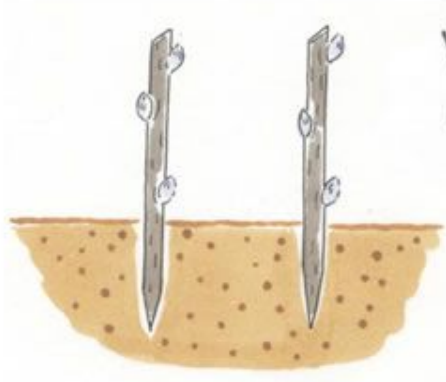
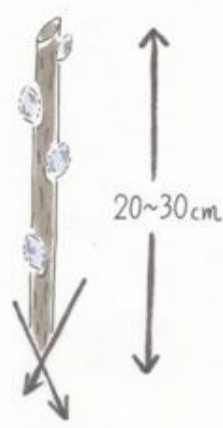
ポイント①

さし木には、枝の元のほうを切ります



ポイント②

元はくさび状に切ること



ポイント③

やや湿った場所に、よくおさえて植えつける